

施工17 内装工事

- 1 カーペット敷きを全面接着工法で行う場合に用いる接着剤は、せん断強度よりも剥離強度を重視したタイプとする。
- 2 鋼製壁下地におけるスタッドの間隔は、ボード1枚張りの場合、450mmとした。
- 3 合成樹脂調合ペイントは、木部、錆止め塗料を施した鉄面、亜鉛メッキ面等に適用できるが、コンクリート、モルタル等の素地には適用できない。
- 4 木工事において、大壁造の面材耐力壁において、1階と2階の上下同位置に構造用面材による耐力壁を設ける場合は、胴差部において、上下の構造用面材相互間の隙間がないように釘留めする。
- 5 軽量鉄骨壁下地へのせっこうボード張りにおいて、スタッドの間隔については、ボード2枚張りの場合、450mm程度とした。
- 6 合成高分子系床タイルの施工に当たっては、接着剤を下地面に塗布した後、オープンタイムを取らずに床タイルを張り付けた。
- 7 せっこうボードを天井に取り付ける場合、室の中央部分から順次四周に向かって施工した。
- 8 湿気のおそれのある洗面所におけるビニル床タイルの張付けには、アクリル樹脂系接着剤を用いた。
- 9 全面接着工法によるタイルカーペット張りにおいて、下地がフリーアクセスフロアの場合、タイルカーペットについては、フリーアクセスフロアのパネルの目地にまたがるように割り付けた。
- 10 ビニル床シートの張付けは、接着剤を所定のくし目ごてを用いて下地面へ平均に塗布し、べた張りとした。
- 11 鋼製天井下地において天井ふところ高が1,500mmあったので、丸鋼により吊ボルトの振止め補強を行った。
- 12 壁面におけるせっこうボードのせっこう系直張り用接着材による直張り工法において、その接着材の塗付け間隔については、ボード周辺部で250～300mmとした。
- 13 せっこう系直張り用接着剤を用いてコンクリート下地に直張りしたせっこうボード表面の仕上げにおいては、仕上げ材に通気性がなかったため、21日間放置後に行った。
- 14 壁紙張りの左官下地は、木ごて仕上げとし、十分に乾燥させた。
- 15 塗装工事において、けい酸カルシウム板面の素地ごしらえについては、穴埋めやパテかきを行った後に、吸込み止めとして反応形成樹脂ワニス进行全面に塗った。
- 16 亜鉛めっき鋼面の仕上げとして合成樹脂調合ペイント塗りをするに当たって、下塗りにシアナミド鉛さび止めペイントを使用した。
- 17 ビニル床シートについては、長手方向に縮み、幅方向に伸びる性質があるので、長目に切断して仮敷きし、24時間以上放置して巻き癖をとった。
- 18 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材の吹付け作業において、断熱材の必要な厚さが30mmであったので、2層吹きとした。
- 19 軽量鉄骨天井下地の吊りボルトは、周辺部の端から150mm以内に配置し、間隔は、縦横方向とも900mmとした。
- 20 フローリングボードの床張りにおいて、ボードの継手位置は、隣接するボードの継手位置から150mm以上離して、乱継ぎとした。
- 21 シーリング石こうボードを、屋内の多湿箇所に用いた。
- 22 天井を石こうボードで二重張りとする場合、上張りの継目と下張りの継目が同位置にならないようにした。
- 23 ビニル床シート張り及びビニル床タイル張りに用いる接着剤において、エマルション形接着剤は、溶剤形接着剤に比べて、安全性、作業性に優れている。
- 24 合成樹脂調合ペイント塗りは、耐アルカリ性がよいので、コンクリート、モルタル等の素地に使用した。
- 25 ビニル床シート張りに用いる接着剤は、湿気のおそれのある下地の場合、アクリル樹脂系エマルション形接着剤とした。
- 26 多彩模様塗料塗りの上塗り塗料を、シンナーで薄めて使用した。
- 27 フローリングブロックの割付けは、割付け墨に合わせ、室の中心から両側に向かって張り進めた。
- 28 木造軸組工法の建築物の断熱工事において、はめ込み工法を採用した場合、ポリエチレンフィルムの防湿層の継目については、木下地のある部分に設けるとともに、その重ね幅を5cmとした。
- 29 せっこうボードは、水分を吸収してもほとんど伸縮しないので、テーパーエッジボードを用いて目地のない壁面とした。
- 30 鴨居は、ねじれや曲がりのない桎目材を用い、木材の性質を考慮して、木裏側に建具の溝を設けた。

施工17 内装工事

- 1 × カーペット敷きを全面接着工法で行う場合、接着剤は剥離強度より、せん断強度を重視したタイプとする。
- 2 × 鋼製壁下地においてスタッドの間隔はボード2枚張りの場合450mm程度とし、ボード1枚張りの場合は300mm程度とする。
- 3 ○ 合成樹脂調合ペイントは、木部、錆止め塗料を施した鉄面、亜鉛メッキ面等に適する、コンクリート、モルタル等の素地には使用しない。
- 4 × この場合の胴差部において、構造用面材相互間に、原則として6m以上のあきを設ける。
- 5 ○ 軽量鉄骨壁下地へのせっこうボード張りにおいて、スタッドの間隔については、ボード2枚張りの場合、450mm程度とする。
- 6 × 合成高分子系床タイルの施工は、接着剤を塗布した後所定のオープンタイムをとり、溶剤の揮発をさせてから貼り付ける。オープンタイムを取らないで貼り付けると、初期粘着が出ず、溶剤が床材で密閉されることによるふくれや床材の軟化が考えられる。
- 7 ○ せっこうボードを天井に取り付ける場合、室の中央部分から順次四周に向かって施工する。
- 8 × 湿気のおそれのある洗面所には耐水性の優れたエポキシ樹脂系接着剤を用いる。アクリル樹脂系接着剤は、一般に湿気のおそれのない床に用いられる。
- 9 ○ タイルカーペットの目地とフリーアクセスフロアのパネル目地とは5cm程度以上ずらす。一致させると目違いが生じやすい。
- 10 ○ ビニル床シートの張付けは、接着剤を所定のくし目ごてを用いて下地面へ平均に塗布し、べた張りとする。
- 11 ○ 鋼製天井下地において、天井ふところが1,500mm以上ある場合は、縦横1800mm程度の間隔で吊りボルトの振止め補強を行う。
- 12 × 壁の石膏ボード張りにおける直張り用接着材の間隔は次の通りである。

施工箇所	接着材の間隔
ボード周辺部	150～200
床上1.2m以下の部分	200～250
床上1.2mを超える部分	250～300
- 13 ○ 石こうボード張付け後、仕上げ材に通気性がある場合は7日以上、通気性のない場合は20日以上放置し、石こうボード張付け用接着剤が十分に乾燥し、仕上げ後の支障がない事を確認してから仕上げを行なう。
- 14 × 壁紙張りの左官下地は、金ごて仕上げとし、十分乾燥させる。
- 15 × けい酸カルシウム板面の素地ごしらえにおいて、汚れや付着物を除去したのち、吸込止めとして反応形成樹脂ワニスを中心に塗り付けてから、穴埋めやパテかいを行う。建築工事監理指針。
- 16 × 亜鉛めっき鋼面の下地には変性エポキシ樹脂さび止めペイントや鉛酸カルシウムさび止めペイントを用いる。シアミド鉛系さび止めペイントは不適切。
- 17 ○ ビニル床シートについては、長手方向に縮み、幅方向に伸びる性質があるので、長目に切断して仮敷きし、24時間以上放置して巻き癖をとり、床面になじませる。
- 18 ○ 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材の吹付けは、1回の吹き付け厚さは10～20mm程度で、これより厚い場合は多層吹きとする。
- 19 ○ 軽量鉄骨天井下地の吊りボルトは、周辺部の端から150mm以内に配置し、間隔は、縦横方向とも900mmとした。
- 20 ○ フローリングボードの床張りのボードの継手位置は、隣接するボードの継手位置から150mm以上離して乱雑とする。
- 21 ○ シーリング石こうボードは、屋内の多湿箇所に使用が可能である。
- 22 ○ 天井を石こうボードで二重張りとする場合、上張りの継目と下張りの継目が同位置にならないようにする。
- 23 ○ ビニル床シート張り及びビニル床タイル張りに用いる接着剤において、エマルション形接着剤は、溶剤形接着剤に比べて、安全性、作業性に優れている。
- 24 × 合成樹脂調合ペイントは、建築物内外部の一般部、構造体、建具、設備配管等の木部及び錆止め塗料を施した鉄鋼面や亜鉛メッキ等に適用するが、塗膜の耐アルカリ性が劣るため、コンクリート、モルタル、ボード類の素地には適さない。
- 25 × 湿気のおそれがある下地や水を扱う部屋、結露しやすい箇所には、エポキシ樹脂系溶剤形接着剤を使用する。
- 26 × 多彩模様塗料の上塗り材は薄めてはならない。
- 27 ○ フローリングの割付けは、室の中心から行い、寸法の調整は、出入口を避け、壁際において行う。
- 28 × 木造軸組工法の建築物の断熱工事において、はめ込み工法を採用した場合、防湿層は幅広の長尺シートを用い、継目は目下地のある部分で重ね合わせることを原則とし、その重ね幅は10cm以上とする。
- 29 ○ せっこうボードは、水分を吸収してもほとんど伸縮しないので、テーパーエッジボードを用いて目地のない壁面をつくることができる。
- 30 ○ 敷居・鴨居の溝じゃくりを行う場合には、木表側に溝を設ける。